

秋のこうとう文化芸術祭参加

江 東 区

# 謡曲大会

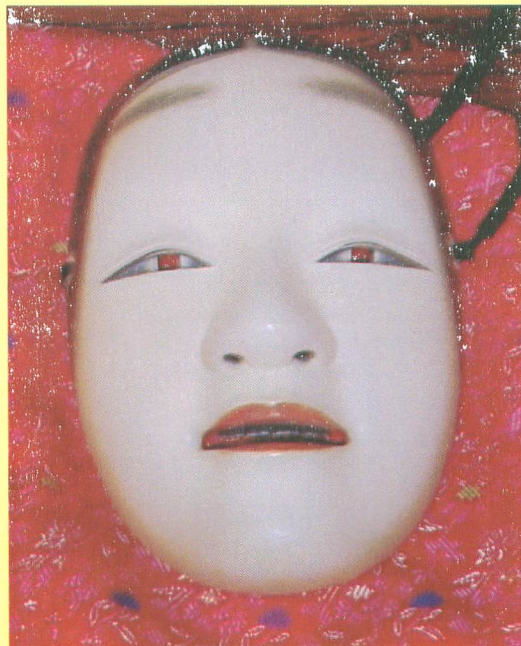
開催日：平成23年11月19日（土）

開演：10時

会場：深川江戸資料館小劇場

江東区白河 1-3-28

入場無料



プログラム：

当日配布

（曲目の一部：裏面）

江東区謡曲連盟 設立30周年を記念して 能面などを展示

主催：江東区謡曲連盟

協力：公益財団法人 江東区文化コミュニティ財団  
江東区文化センター

協力：NPO 法人 能楽普及集団 鶴亀座

お問合せ：江東区謡曲連盟 会長 森近 03-3641-4802

秋のこうとう文化芸術祭参加

# 江東区謡曲大会

曲名	あらすじ
鉄輪	京都下京に住む女が、夫に裏切られた復讐のため、貴船神社に「丑の刻詣」をすると、容姿は鬼のように変身します。悪夢に悩まされた夫が、安部晴明に占ってもらおうと「女の恨みで殺される」というので、祈祷をしてもらおう。祭壇をしつらえ、晴明が一心に祈ると、恐ろしい鬼の形相をした生霊が現れ、恨みを果たそうとするが、神々の責めにより神通力を失い消えて行きます。
百萬	大和国吉野の里の男が、南都西大寺付近で拾った幼い子供を連れて、嵯峨野の「大念仏」に詣で、所の者に「何か面白い見世物はないか」と聞くと、「百萬という物狂い(遊芸人)が面白い」と応える。門前の者が念仏を唱えていると、百萬が現れ、念仏を唱え面白おかしく「車の段」を演じて見せますが、百萬は、生き別れたわが子の姿を追い求めるあまり、心を乱します。吉野の男は、あまりの哀れさに幼子を引き合わせ、親子は再会し共に都へ帰ります。
通小町	京都洛北八瀬の里で、ひと夏を過ごしている僧のもとへ里女が現れ、「髑髏の目からススキが生えた」という和歌を詠み、「市原野に住む」と答えて消え失せる。小野小町の幽霊と察した僧が、小町の霊を弔う。小町が仏の戒を得ようとする、それを引き留めようとする恐ろしい形相の深草の少将の幽霊が出現し、僧に請われて「百夜通い」の様子を再現しますが、僧の回向によって二人とも成仏します。
菊慈童	中国が舞台。魏の文帝の臣下が、勅命により「薬の水」を尋ねてレッケン山に行くと、700年の昔、周の穆王に仕えた慈童がこの山に配流された時に、帝から賜った「枕の要文」を菊の葉に書いて、その露を吸っていたので仙人となり、今に生き永らえているのに出会った。酒宴となり盃を重ね舞を舞う。慈童自身も自分の長命に驚いて舞いながら仙家へと帰っていきます。
葵上	光源氏の妻で左大臣の息女の葵上が「物の怪」に悩まされるので、照日の巫女が「物の怪」の正体と呼び出すと、六条御息所が現れ、源氏の愛を失った恨みを述べて、葵上を引き連れてゆこうとする。驚いた左大臣は更に横川小聖を呼んで加持させると、六条御息所の怨霊は、鬼面となって現れ出で、葵上を取り殺そうとしたが、小聖に祈られて、心を和らげ成仏します。
舍利	出雲国より出た僧が、京都泉湧寺の寺番に「十六羅漢」や「仏舍利」を見たいと頼んでいると、近くの里人が寄ってきて、自分も拝ませてほしいというので、一緒に拝み讃えます。すると稲光がし、里人は忽ち鬼となって、足疾鬼と名乗り「舍利」を盗んで虚空に消えます。僧が祈りを奉げると韋駄天が現れ、逃げる足疾鬼を追いかけ、終に打ち伏せ「舍利」を取り返します。

(資料提供：NPO 法人 能楽普及集団 鶴亀座)

## 江東区謡曲連盟 加盟団体

鷗謡会 千謡会 石川島金剛会 日立東謡会 楽(ガク)謡会 楽(ラク)謡会